



2019
Vol.03

2019年12月発行

■編集/
大学コンソーシアムひょうご神戸
2019年度学生災害ボランティア・ネットワーク事業
学生スタッフ

■発行/
ひょうごボランティアプラザ
神戸市社会福祉協議会
日本財団学生ボランティアセンター
大学コンソーシアムひょうご神戸

■デザイン/
イワサキ出版印刷有限会社



神戸から笑顔と元気持ってきたで
学生が創るボランティア

もくじ

- 2・3 震災から8年、今すべきことが私たちにはある
- 4・5 心と心を繋ぐ 真備での学び
- 6・7 研修プログラム
- 8 おすすめ! Spot & Food
ボランティアお役立ち情報

8/24 (土) **1** 日目

Exploring Yuriage

戻ってきたまち、岩沼市玉浦西地区を歩いて

尚綱学院大学 阿留多伎先生の講話をお聴きしながら、玉浦西地区を散策しました。住民全体でまちづくりに関わり、意見をアンケートで集め、取り入れるなど多くの取り組みがあったとお聴きました。世代を超えたまちづくりの新たな形であると思いました。



ゆりあげ 閉上の現在

名取市大震災慰霊碑と日和山を訪れました。未だ終わらぬ嵩上げ工事、危険区域により立ち入れなくなってしまった地域。8年経った今でも終わらぬ工事に津波が残した爪痕の深さを改めて強く感じる1日でした。

石碑が伝えたかったこと、今伝えたいこと

閉上中央町内会長の長沼さんの講話をお聴きました。石碑に記された津波の伝承を教訓として引き継げなかった悔しさ、子供のころ遊んでいた場所や風景それら全て津波によって無くなってしまった悲しみ、この出来事を風化させてはいけないと心に誓いました。

学生の声 1日目 / まち歩き

到着後みえ街並みはとて綺麗で素敵な町で災害があったようには思えません。しかし日和山から見た光景は被害の大きさを実感させられるものでした。長沼さんのお話で被災後の現実を知り、1日目にして衝撃的なことはかりました。

甲南大学 1回生 齋藤 万莉



宮城県 名取市閉上での活動

震災から8年、今すべきことが 私たちにはある



チーム KACKEY-S 代表の感想



関西学院大学 1回生 北出 凌大

東北での3日間、チームとして全力で取り組みました。学びはもちろんですが、一人一人が全力で楽しめていて、特に最終日に記念撮影した時の皆さんの笑顔は達成感に満ち溢れていて印象的でした。自分達が大学生である時期に東北を訪れ、自分の目で耳で学ぶところに意味があると思います。メンバー各々がこの経験を次に繋げ、そしてどんな形で今回を軸にして震災に携わり続けてもらいたいと思います。



チーム Seven Stars メンバーの感想



甲南大学 3回生 田村 匠

今回の学生災害ボランティアの活動を通して良かったことは、現地を自分の目で見る事が出来たことが何よりも大きかったと思います。写真でも情報を得ることが出来ますが、自らの目で見ることで得られるものは写真以上であり、自らの目で見たからこそ津波の被害の実情や終わらない復旧作業や嵩上げ工事の現状をより身近に感じる事が出来ました。現地の人との交流もまたここでしか出来ない経験をされました。大震災当日のお話や騒音トラブルなどによる避難所生活の苦しさ、仮設住宅での問題、テレビや新聞からだけでは知ることの出来ない現実をお聞き出来ました。現地の学生との交流もまた大きな刺激になりました。三日間の活動は、多くの体験から得られるものばかりで参加することが出来て良かったです。

東日本大震災



2011年3月11日。国内最大規模となるM9.0の地震。死者15,898人、行方不明者2531人、避難者数49,953人。津波の高さ最大9m以上と人間の予想を遥かに超えた、未曾有の大地震だった。震災から8年たった今仮設団地から復興公営住宅へ移る人々、自己再建する人々の増加。そして、5月に閉上ではまちびらきが行われた。しかし、本当にまちができたといえるのだろうか。「まちびらきとはなんだべ」と住民の方々の気持ちが追いつかずにいる。私たちは学生にできること。それは、そばにいる。話を。耳を傾ける。共に笑う。同じ時間を共有する。忘れない。そして、学び続ける。これが、震災から年月が経った今、できること。



8/26 (月) **3** 日目 Workshop with Shokei Gakuin U

これからの未来に向けて

最終日は、尚綱学院大学・東北大学の皆さんとワークショップを行いました。「復興」とは何なのか、何をもって復興完了と定義するものなのか話し合いました。そして一つの結論として私たちは、復興とは終わりなきものであると考えました。二度とこのような被害を出さないために、もう一度笑って前に進むようになるために、私たちは滅災のために出来ることをしていかなければなりません。



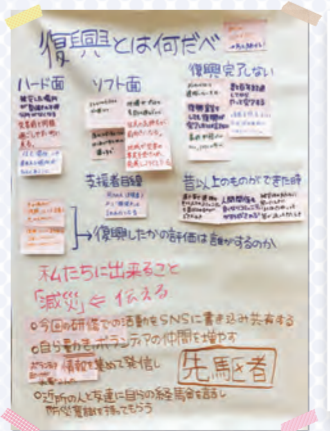
学生の声 3日目 / 合同研修会

実際に現地を訪れ、現地の人の話を聞かせていただくことで災害をより近い存在として感じることができ、とても貴重な体験となりました。

甲南女子大学 2回生 岡田 美優



3日間地元で学生の皆さんや宮城の方々から学んだことをこれからの生活でどのように活かすかを考えることができました。私がこれからボランティア活動していく上でのスタート地点となるような研修会でした。神戸松蔭女子学院大学 2回生 中村麻梨奈



Tea party 8/25 (日) **2** 日目

住民の方との交流会を経て

尚綱学院大学の学生と共に住民の方々と茶話会を行いました。震災を経験した住民の方々から多くのお話を聞きました。震災の辛さ、恐怖、どれも私たちの想像を絶するものばかりでした。この交流会で聞かせていただいた記憶を私たちが次世代に伝えていこうと思います。そして、今後、滅災に繋がる取り組みをしていかなければならない、そう強く思った一日でした。



学生の声 2日目 / 住民交流会

交流会に至るまでに約半年間、震災や現地の住民の方々の現状を学んできました。これらの知識を身につけた上で交流会に参加したからこそ、住民の方の何気ない言葉からもそれぞれの背景を想像し、深く考えさせられました。当事者の気持ちを真に理解することはとても難しいことですが、背景を知っていると知らないとは大きな違いがあるのだとこの交流会で改めて実感することができました。

関西学院大学 4回生 中村 希

私はこのような交流会が初めてだったので、初めは何を話していいかわからなくて、ゆっくゆっく緊張して戸惑っていました。しかし、現地のの方々がとても優しく、私が話すと「うんうん」と頷いてくださって緊張もとけていき、人の温かみを感じました。最後は楽しく住民さんと笑い合っていて、楽しい交流会になりました。

神戸常盤大学 2回生 中村 華菜

真備総仮設集会所

TEAM NEXUS

真備総仮設集会所では、午前中はちょこっとボランティアとして主に換気扇掃除、午後はアサガオ風鈴作りと昔遊びを行いました。

たくさんの方々の参加いただき、大人から子どもまで大盛り上がりでした。

アサガオ風鈴作りでは、住民の方と学生と一緒に、紙コップにシールを貼ったり、絵を描いたりして、素敵な風鈴を作ることができました。「来てくれてありがとう。」この言葉がどれほど嬉しいものかを改めて感じました。住民の方々と過ごした時間はかけがえないものになりました。



岡山県 倉敷市真備町 での活動

2019.8/31(sat)~
9/1(sun)



心と心を繋ぐ 真備での学び

真備総仮設談話室

TEAM だんごきょうだい

私たちのチームは茶話会と変わり種ビザづくり、マグネットづくりなどの作業を行いました。そして活動の最後に、住民の方や学生からのメッセージを集めて、プレゼントを送りました。変わり種ビザは好評で、「新居に移り、友人を招いた時に作ってみるね」と言っていただき、住民の方々の生活に新しいアイデアを提供できたことがとても嬉しく思います。また、このような交流の中で、住民の方の本音をうかがうことができました。私たちが被災地に行くことで、少しでも元気になっていただけたらいいなと思います。たくさん「ありがとう」をいただき、快く受け入れてくれた皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。



TEAM サニーイレブン

私たちのグループは、住民の方々と一緒に岡山名物の蕨山焼きそばを作ったり、貼り絵やすごろくトーク、茶話会を行ったりしました。焼きそば作りでは、住民の方からアドバイスをいただいたり、調理のコツを教えてくださいました。話を膨らませることができました。チームの活動テーマとして掲げていた「繋がる三間(時間・空間・仲間)」のもと、住民の方々に元気を届けられた活動になったのではないのでしょうか。そして、住民の方々の笑顔に私たちが元気をいただきました。



9月1日(日) 2日目



講義「被災した高校生の支援について考える」

at まびシェア

岡山県立矢掛高校、地域協働活動コーディネーターの井辻美緒さんから被災した「高校生の支援について考える」というテーマで講義をしていただきました。この講義を通じて感じたことは、これからの日本を担う若者を大切にすべきだということです。災害時の支援といえば、高齢者や子どもが優先され、高校生への支援は後回しになっているように感じます。10代の若者への寄り添いは、私たち大学生を中心に行うことが大切です。年齢が近いからこそ話せることや理解し合えることがあると思います。行政や学校だけでは、解決できない問題がたくさんあります。学生ボランティアとして、自分たちができる支援は何かを考えたいと思います。



甲南大学 2年生
坂口 菜々子

学生の声 コミュニケーションの大切さ

「ボランティアとは一体何か」と問われたとき、以前の私なら「ボランティア=奉仕」と答えていました。つまり、「困っているから、～してあげよう」という考えが少なからずありました。けれど、今回の活動を通して「～してあげよう」はボランティアをする上では持たない考え方であると学びました。逆にボランティア活動とは自分自身を大きく成長させてくれたと感じました。

どちらかと言えば私自身、指示待ち人間でしたがチームミーティング等の事前準備を行うにつれて、自然と

自ら考えて動いていけるようになりました。また、この事がしっかりと現地での活動と結びついたことを身をもって感じました。と同時にコミュニケーションの本来の意味も学ぶことが出来ました。

コミュニケーションは単なる両者の会話のキャッチボールではなく、互いに分かち合うことなのではないかと活動を通して思うようになりました。そう思うと、笑いながらお話を出来たことは少しでも住民の方の心に近づけたのではないかなと思います。

西日本豪雨 災害について



2018年(平成30年)6月28日から7月8日にかけて西日本を中心に北海道や中部地方を含む全国的に広い範囲で記録された台風7号および梅雨前線等の影響による集中豪雨。西日本を襲った豪雨は、洪水や崖崩れを引き起こし、200人以上が死亡、数十人が行方不明という36年ぶりの大災害となりました。中でも倉敷市真備町は最も被害の大きかった地域で、市全体の死者数51人のほとんどを占めています。真備町の4分の1以上が浸水、水の深さは最大で4.8メートルに及びました。

被害から1年以上経った今も約4千世帯、9千人以上が仮設住宅などで不自由な暮らしを余儀なくされています。災害というものは、いつどこで誰が当事者になるかわかりません。そのような現状に目を向け、自分事として考える必要があります。

研修プログラム

防災、減災って？ボランティア活動って？私たちが被災地でできることは何？
 何度も研修会を重ね、学んだ上で被災地へ向かいます。

START!

学生スタッフ研修会

4/13(sat)~14(sun) 甲南大学平生記念セミナーハウス

いよいよ今年度の活動がスタートしました。この研修会ではリーダーシップやフォローシップについて学びました。



第1回 オリエンテーション・研修会

5/18(sat) ひょうごボランティアプラザ セミナー室

約90名の応募の中から選ばれた県内12大学53名、初めての顔合わせ。アイスブレイクを通じて、少しずつ打ち解けました。また、遠路遅々宮城県名取市関上から長沼さんにお越しいただき、名取市関上の現状についてお聞きしました。私たち学生に対し、「来てくれるだけでいい。想ってくれるだけでいい。」という言葉がとても印象的です。



第4回研修会 (丹波スタディーツアー)

6/29(sat) 兵庫県丹波市

丹波豪雨災害の経験を生かしたコミュニティの在り方について学びました。災害を過去の暗い記憶として留めるのではなく、それを将来にどう繋げるかを常に考え、前進していることを実感しました。そして、住民の方々と学生で「住みよい丹波にするためには」というテーマでワークショップを行いました。丹波の特産を生かし、課題を解決するとともに、地域に若者を取り込むにはなど、私たち学生の意見をお伝えしました。丹波に少しでも新しいエネルギーを吹き込むためのきっかけになれば幸いです。



TANBA

現地ヒアリング報告会

7/13(sat) 甲南大学岡本キャンパス i Commons 3階 P2-P3

現地ヒアリングで明らかになった、現状・ニーズについて参加した学生が報告しました。それを踏まえ、本番に向けてチームミーティングを行いました。



第2回研修会 (長田まち歩き)

5/25(sat) ふたば学会(神戸市長田区)

神戸市長田区は、阪神淡路大震災で甚大な被害を受けた地域です。その地域がどのように復興の道を歩んできたのか、実際にまち歩きをしながら、地元の方のお話を聞き、学びました。街が復興するには、「地域の力」が必要不可欠です。瓦礫が散らばる寒空の下、一杯のホットコーヒーが被災者の心を温め、勇気付けたこと、そして、それが後に復興の大きな一歩となったこと。そんなお話を聞きました。地元の方で何とかしよう、復興しようという想いが大切であると感じました。そんな想いのあふれる長田の街には、鉄人28号のモニュメントが建っています。JR神戸線に背を向けて建つ理由は、「長田の街を見守っているから」だそうです。人々の心に、震災の辛い記憶と、それ以上に強く温かい人々との繋がりを刻み込んでいるのではないのでしょうか。



NAGATA

第3回研修会

6/1(sat) 人と防災未来センター・JICA関西・東灘区魚崎町 横屋会館

人と防災未来センターに行き、語り部の話を聞いたり資料を見たりして阪神淡路大震災について学びました。そして震災後の地域の取り組みについて、東灘区魚崎町防災福祉コミュニティの方から地域住民による主体的な地域防災活動の話をお伺いしました。

「まさか神戸という都市で…。あれほどの大震災を経験したことがなかったため、慌てふためいた。」過去の災害を教訓に、神戸のまちは、建物の補強といったハード面だけでなく、人々の繋がりの面でも、強くなったと感じました。

阪神淡路大震災は私たちが生まれる前に起きたことですが、神戸の学生として、自分たちのバックグラウンドについて知るいい機会となりました。

阪神淡路大震災では、全国各地からたくさんの方が支援に駆けつけてくれたと聞きました。「被災地リレー」という言葉のように、25年前の恩返しができるよう、被災地に向かいます。



現地ヒアリング

6/15(sat)~16(sun) 宮城県名取市関上
 6/22(sat)~23(sun) 岡山県倉敷市真備町

各チームの学生代表が、被災地の現状を知るため事前に現地を訪れました。住民の方とお話をする中で、当時の状況、今の暮らし、私たちに、計り知れないほどの苦悩や困難、それでも前向きに生きている姿を目の当たりし、それらを自分事として捉え、考えることができました。ヒアリングで感じたことを神戸に持ち帰り、学生に伝え、今後の活動に活かしていきます。



YURIAGE

MABI

現地活動

8/24(sat)~26(mon) 宮城県名取市関上
 8/31(sat)~9/1(sun) 岡山県倉敷市真備町

チームミーティングを重ね、現地で住民の方々とどのように交流するのか、現地活動のプレゼンテーションを行いました。スタッフの方から厳しい講評もいただき、その後もチームミーティングを重ね、よりよいものに改善したうえで、現地に向かいます。

現地活動プレゼン



8/3(sat) 甲南大学岡本キャンパス i Commons 3階 P2-P3



YURIAGE



MABI

振り返り会&修了式

9/14(sat) 甲南大学岡本キャンパス i Commons 3階 P2-P3



4か月間にわたる活動も今日で終了です。これまでの振り返りを行い、この活動を今後どのように活かしていくのか一人ひとり意気込みを語りました。修了時の学生を見ると4か月前に比べ、とても成長したように思います。この活動を1回だけで終わらせるのではなく、今後も続けてほしいと願っています。

GOAL!

Continue to next year!

Let's Travel!

おすすめ! Spot & Food



観光地やグルメを楽しむことも、その地域を元気にする方法のひとつ。

楽しい!おいしい!美しい!...
いろんな「いいね!」を探しに行こう!



HOKKAIDO

MIYAGI



牛タン

宮城のグルメといえば「仙台牛タン定食」。肉厚なのに柔らかくてジューシーな牛タン焼きは何度も食べたくなる美味しさです。



倉敷美観地区

白壁の蔵屋敷、なまこ壁、柳並木の風景...伝統的な建物が作り出す町並みや、倉敷川沿いのレトロモダンな風景が、訪れる人を魅了し続けています。



吉備真備公園

遣唐使として中国へ渡った「吉備真備公」を偲んで設けられた公園。中国の雰囲気漂う庭園の散策を楽しむことができます。

OKAYAMA



まびのタケノコ

真備地区のたけのこは、西日本最大の産地として知られています。握りたては特に甘い香りで、歯ざわりも柔らかく最高の旬の味です。

CHUGOKU

SHIKOKU

CHUBU

KANTO

KINKI



ゆりあげ港朝市

古くから漁港として栄えた関上港。約30年前から日曜・祝日に朝市が開かれています。新鮮な海の幸、とれたての野菜、お食事処が勢揃いする約50店舗のグルメの宝庫です。



HYOGO

KYUSYU



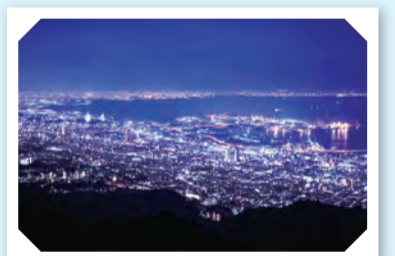
神戸ビーフ

1868年の神戸港開港の頃、神戸で牛肉を食べたイギリス人が絶賛したことから広まった神戸ビーフ。柔らかで肉質がよく、外国人にも人気のブランド牛肉です。



南京町

日本三大中華街のひとつ、「南京町」。歩くだけでも楽しめますが、テイクアウトできる絶品中華の店が軒を連ね、食べ歩きにもってこいの美味しい町です。



1000万ドルの夜景

六甲・摩耶山からの夜景は日本三大夜景のひとつ。神戸から開空まで一望でき、電気代換算で1000万ドルの夜景と呼ばれるスケールの大きな絶景です。

ボランティアお役立ち情報

兵庫県内外の様々なボランティア募集情報がアップされています!
災害ボランティアだけでなく、高齢者や子どもたちを対象とした地域のボランティア活動など、みなさん一人ひとりにぴったりのボランティア活動が必ずあるはず!!
あなたもボランティアに参加してみませんか?

- ◆ ひょうごボランティアプラザ (コラボネット) <https://www.hyogo-vplaza.jp/>
- ◆ 神戸市社会福祉協議会 <https://www.with-kobe.or.jp/>
- ◆ 日本財団学生ボランティアセンター <http://gakuvo.jp/>
- ◆ 大学コンソーシアムひょうご神戸 <http://www.consortium-hyogo.jp/>

本紙をご覧になって、ご意見・ご感想などをぜひお聞かせください!

◆ お問い合わせは...

大学コンソーシアムひょうご神戸 学生交流委員会

〒651-0072 兵庫県神戸市中央区脇浜町1丁目2-8

兵庫国際交流会館1F

【TEL】078-271-0233 【FAX】078-271-0244

【E-mail】info@consortium-hyogo.jp



<http://www.consortium-hyogo.jp/>